

Q001 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q002 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q003 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q004 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q005 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q006 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認6）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：3. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q007 ○× | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q008 ○× | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q009 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認9）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。
4. 消火器は、消防設備士第4類の対象である。

答え・解説

正答：3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q010 ○× | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q011 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q012 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認12）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：2. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q013 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q014 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q015 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認15）

1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q016 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【16】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q017 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【17】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q018 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認18）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

答え・解説

正答：4. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q019 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【19】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q020 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【20】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q021 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認21）

1. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第6類の消火器に含まれる。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：3. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q022 ○× | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【22】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q023 ○× | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【23】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q024 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認24）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q025 ○× | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【25】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q026 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。【26】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q027 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認27）

1. 甲種第4類は、乙種第4類よりも業務範囲が狭い。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

答え・解説

正答：4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q028 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。【28】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q029 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。【29】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q030 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認30）

1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。
2. 発信機は、煙を自動検知して熱で作動する感知器の一種である。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。

答え・解説

正答：1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q031 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【31】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q032 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【32】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q033 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認33）

1. 消防機関へ通報する火災報知設備は、避難器具である第5類の対象である。
2. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：2. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q034 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【34】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q035 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【35】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q036 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認36）

1. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第6類の消火器に含まれる。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

答え・解説

正答：4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q037 ○× | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【37】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q038 ○× | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【38】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q039 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認39）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。
4. 消火器は、消防設備士第4類の対象である。

答え・解説

正答：3. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q040 ○× | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【40】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q041 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。【41】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q042 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認42）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 甲種第4類は、乙種第4類よりも業務範囲が狭い。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

答え・解説

正答：4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q043 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。【43】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q044 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。【44】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q045 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認45）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q046 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【46】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q047 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【47】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q048 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認48）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 消防機関へ通報する火災報知設備は、避難器具である第5類の対象である。
3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
4. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。

答え・解説

正答：3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q049 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【49】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q050 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【50】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q051 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認51）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q052 ○× | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【52】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q053 ○× | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【53】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q054 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認54）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

答え・解説

正答：4. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q055 ○× | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【55】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q056 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。【56】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q057 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認57）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：2. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q058 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。【58】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q059 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。【59】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q060 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認60）

1. 発信機は、煙を自動検知して熱で作動する感知器の一種である。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

答え・解説

正答：4. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q061 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【61】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q062 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【62】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q063 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認63）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q064 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【64】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q065 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【65】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q066 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認66）

1. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
2. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第6類の消火器に含まれる。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

答え・解説

正答：4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q067 ○× | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【67】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q068 ○× | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【68】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q069 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認69）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

答え・解説

正答：4. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q070 ○× | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【70】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q071 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。【71】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q072 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認72）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

答え・解説

正答：4. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q073 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。【73】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q074 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。【74】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q075 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認75）

1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。

答え・解説

正答：1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q076 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【76】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q077 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【77】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q078 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認78）

1. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：3. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q079 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【79】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q080 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【80】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q081 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認81）

1. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
2. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

答え・解説

正答：4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q082 ○ × | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【82】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q083 ○ × | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【83】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q084 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認84）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。
3. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
4. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。

答え・解説

正答：2. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q085 ○ × | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【85】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備

Q086 ○ × | 乙4 / 業務範囲

乙種第4類免状だけで、第4類対象設備の工事を業務として行える。【86】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。乙種第4類免状では、第4類対象設備の整備・点検が業務範囲となる。

要点：乙4 / 業務範囲

Q087 4択 | 甲4

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認87）

1. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。
2. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
3. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
4. 甲種第4類は、乙種第4類よりも業務範囲が狭い。

答え・解説

正答：1. 甲種第4類は、第4類対象設備の工事・整備・点検を扱える。

解説：甲種は工事・整備・点検、乙種は整備・点検。

要点：甲4

Q088 ○ × | 構成

自動火災報知設備は、感知器・発信機・中継器・受信機・地区音響装置などで構成される。【88】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：自火報は火災を検知・伝達・表示・報知する設備。

要点：構成

Q089 ○ × | 受信機

受信機は、火災信号を受けても表示や音響に関与しない単なる配線箱である。【89】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。受信機は、火災信号を受けて火災の発生を表示し、音響装置を鳴動させる中枢機器である。

要点：受信機

Q090 4択 | 発信機

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認90）

1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。
2. 実技試験は、実際に現場で設備を施工する作業試験である。
3. 発信機は、煙を自動検知して熱で作動する感知器の一種である。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：1. 発信機は、火災を発見した人が手動で火災信号を送るための機器である。

解説：発信機は人の操作による信号発信に用いられる。

要点：発信機

Q091 ○ × | 第4類

消防設備士第4類の対象には、自動火災報知設備が含まれる。【91】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系設備を対象とする。

要点：第4類

Q092 ○ × | 第4類 / ガス漏れ

ガス漏れ火災警報設備は、消防設備士第6類の対象である。【92】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。消防設備士第4類の対象には、ガス漏れ火災警報設備が含まれる。

要点：第4類 / ガス漏れ

Q093 4択 | 第4類 / 火災通報

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認93）

1. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。
2. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
3. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
4. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。

答え・解説

正答：1. 消防設備士第4類の対象には、消防機関へ通報する火災報知設備が含まれる。

解説：消防機関へ通報する火災報知設備は第4類の対象。

要点：第4類 / 火災通報

Q094 ○ × | 共同住宅

共同住宅用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【94】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：公式の免状種類表では、共同住宅用自動火災報知設備は第4類に含まれる。

要点：共同住宅

Q095 ○ × | 住戸用

住戸用自動火災報知設備は、漏電火災警報器の第7類に含まれる。【95】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。住戸用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

要点：住戸用

Q096 4択 | 特定小規模

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認96）

1. 消防用設備等は、設置後に点検や維持管理を行わなくてもよい。
2. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。
3. 消防設備士乙種免状だけで、対象設備の工事を自由に行うことができる。
4. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第6類の消火器に含まれる。

答え・解説

正答：2. 特定小規模施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。

解説：特定小規模施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：特定小規模

Q097 ○ × | 複合型居住施設

複合型居住施設用自動火災報知設備は、第4類の対象設備に含まれる。【97】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：複合型居住施設用自動火災報知設備は第4類の対象。

要点：複合型居住施設

Q098 ○ × | 類別

漏電火災警報器は、消防設備士第4類の主対象である。【98】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：×

解説：誤り。漏電火災警報器は、消防設備士第7類の対象である。

要点：類別

Q099 4択 | 類別

消防関係法令：4類関係について、正しい記述はどれか。（確認99）

1. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。
2. 消防設備士免状は、類別に関係なくすべての消防用設備等を扱える。
3. 消防設備士試験の乙種は、実技試験がなく筆記試験だけで判定される。
4. 消火器は、消防設備士第4類の対象である。

答え・解説

正答：1. 消火器は、消防設備士乙種第6類の対象である。

解説：消火器は乙種第6類の対象。

要点：類別

Q100 ○ × | 警報設備

第4類の設備は、火災の発生を知らせる警報系の設備が中心である。【100】この記述は正しいか。

1. ○
2. ×

答え・解説

正答：○

解説：第4類は自動火災報知設備などの警報系が中心。

要点：警報設備